

透析アミロイドーシスと血漿PIC濃度の関連の検討： 虎の門病院 高市憲明

目的:透析アミロイドーシスのマーカーとして血漿中PIC濃度が使用できる可能性があるかどうかを検討する。全身性ALアミロイドーシス患者と限局性アミロイドーシス患者のPIC濃度を参照として検討する。なお、透析患者においてPICを上昇させる疾患を合併している患者は除外して検討した。

結果1:全身性ALアミロイドーシス患者20名、限局性アミロイドーシス患者8名の血漿PIC濃度は $3.8 \pm 4.5 \mu\text{g/ml}$ 、 $0.7 \pm 0.2 \mu\text{g/ml}$ ($M \pm SD$) であり有意に全身性アミロイドーシスで高値であった。ROC曲線の解析から、 $1.2 \mu\text{g/ml}$ をカットオフ値とすると、全身性ALアミロイドーシスの診断の感度は90%、特異度は100%と良好に鑑別することができた。

結果2:透析患者のPIC濃度は、透析年数や患者年齢に従って増加傾向を示した。透析アミロイドーシス患者27名、非アミロイドーシス透析患者139名の血漿PIC濃度は $1.2 \pm 0.4 \mu\text{g/ml}$ 、 $0.8 \pm 0.3 \mu\text{g/ml}$ であり透析アミロイドーシス患者で有意に高値であった。透析患者においてROC曲線の解析から、 $1.05 \mu\text{g/ml}$ をカットオフ値とすると透析アミロイドーシスの診断の感度は63%、特異度は78%であった。

結論:透析アミロイドーシスにおいても血漿PIC濃度は上昇する。血漿中PIC濃度は透析アミロイドーシスの鑑別にもある程度有用であると思われる。

透析患者における濃度と年齢、透析期間との関係

